

福山市が発注する土木工事等(営繕工事は除く)の 設計単価の端数調整方法及び有効桁数の考え方

(1) 端数調整方法の基本的考え方

- ・単価の決定の際に平均値を使用する場合は端数調整を行う。
- ・物価資料による場合において、1つの資料にしか掲載がない場合は端数調整は行わない。
- ・端数調整方法はすべての資材に対して同一の方法により調整を行う。

(2) 材料単価端数調整方法

- ・材料単価の有効桁数は、物価資料、カタログまたは見積り書に掲載されている価格の有効桁数と整合を図るものとし、有効桁数以外の端数は切捨てとする。掲載されている価格が複数ある場合は有効桁数の最も多いものを採用する。
- ・有効桁数の大きい方の桁を有効桁数として切り捨てにより単価を決定するが、平均する単価の桁数が違う場合の有効桁数は、平均後の単価と位取りが同じ方の有効桁数とする。
ただし、有効桁数が3桁未満のときは、有効桁数は3桁とするが、平均後の単価の有効桁数が3桁未満の場合は、有効桁数は2桁とする。

(3) 端数調整の例

(例1) 有効桁数の大きい方を有効桁数とする場合

建設物価	43,550 円(有効桁数4桁)
積算資料	44,000 円(有効桁数2桁)
平均	43,775 円
決定単価	43,770 円(有効桁数4桁, 5桁以降切り捨て)

(例2) 平均する単価の桁数が違う場合1

建設物価	10,050 円(有効桁数4桁)
積算資料	9,900 円(有効桁数2桁)
平均	9,975 円(平均後の単価の位取りは積算資料)
決定単価	9,970 円(最小有効桁数3桁, 4桁以降切り捨て)

(例3) 平均する単価の桁数が違う場合2

建設物価	10,150 円(有効桁数4桁)
積算資料	9,900 円(有効桁数2桁)
平均	10,025 円(平均後の単価の位取りは建設物価)
決定単価	10,020 円(有効桁数4桁, 5桁以降切り捨て)

(例4) 有効桁数が同じ場合

建設物価	14,576 円(有効桁数5桁)
積算資料	14,357 円(有効桁数5桁)
平均	14,466.5 円
決定単価	14,466 円(有効桁数5桁, 6桁以降切り捨て)

(例5) 有効桁数が3桁未満のため3桁を有効桁数とする場合1

建設物価	570 円(有効桁数2桁)
積算資料	600 円(有効桁数1桁)
平均	585 円
決定単価	585 円(最小有効桁数3桁, 4桁以降切り捨て)

(例6)有効桁数が3桁未満のため3桁を有効桁数とする場合2

建設物価	8.0 円(有効桁数2桁)
積算資料	7.9 円(有効桁数2桁)
平均	7.95 円(有効桁数3桁)
決定単価	7.95 円(最小有効桁数3桁, 4桁以降切り捨て)

(例7)有効桁数及び平均後の有効桁数が3桁未満のため, 2桁を有効桁数とする場合

建設物価	9 円(有効桁数1桁)
積算資料	8 円(有効桁数1桁)
平均	8.5 円(平均後の有効桁数3桁未満)
決定単価	8.5 円(有効桁数2桁)

※物価資料とは、「建設物価」「Web建設物価」「土木コスト情報」(一般財団法人建設物価調査会発行)及び「積算資料」「積算資料電子版」「土木施工単価」(一般財団法人経済調査会発行)のことをいう。